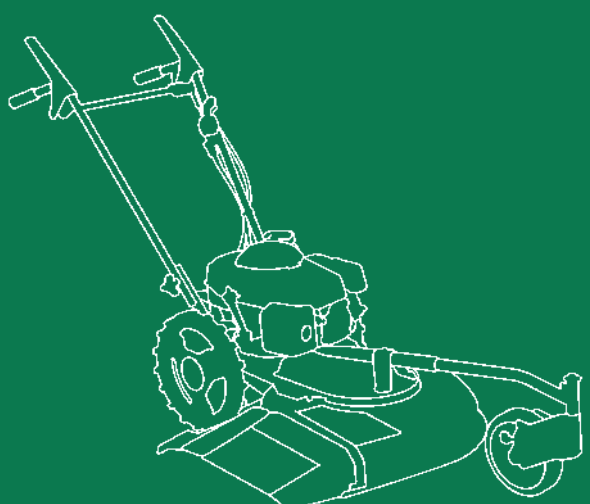
HONDA
汎 用 製 品

草刈機

UM2160・UM2460

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にご注文ください。

本製品は、(一社) 日本陸用内燃機関協会の排出ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた草刈機で安全かつ能率的な草刈り作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
－草刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
－本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書は UM2460 を中心にまとめてあります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
　安全ラベル 7

サービスと保証について 9

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 10
　エンジン回転調整レバー 12
　刈刃クラッチレバー 12
　走行クラッチレバー 13
　燃料コックレバー 13
　刈取り高さ調整レバー 14
　車輪固定ピン 14
　変速レバー 15
　ブレーキレバー（UM2460 ブレーキ仕様） 15
作業前に点検・調整をしましょう 16
　作業前の点検 16
　燃料の点検 17
　エンジンオイルの点検 19
　エアクリーナー（空気清浄器）の点検 20
　刈刃の点検 21
　リアプロテクターラバー、サイドラバーの点検 23
　各部の清掃 24
エンジンのかけかた 25
運転操作のしかた 28
　1 エンジン始動 28
　2 運転操作（UM2160） 28
　2 運転操作（UM2460） 31
　3 刈取り作業 34
エンジンのとめかた 40
定期点検を行いましょう 42
　定期点検表 42

点検・整備のしかた……43
エンジンオイルの交換……43
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃・交換……45
点火プラグの点検、調整、交換……47
刈刃クラッチケーブルの点検・調整……49
走行クラッチケーブルの点検・調整（UM2160）……51
変速レバーケーブルの点検・調整（UM2460）……52
ブレーキレバーの点検・調整（UM2460 ブレーキ仕様）……53
長期間使用しないときの手入れ……55
車への積み降ろしのしかた……58
故障のときは……60
主要諸元……61

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。ガソリンを補給するときは必ずエンジンを停止して、換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して、給油限界位置を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 防護装置（サイドラバー、リアプロテクターラバー、ベルトカバー）は正しく取付けられていることを確認してから作業してください。

警告

作業を始める前に

- 衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、手袋、ひざ下まである長靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 外気温が 5 ℃未満になるような環境で使用すると防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- 本機は草刈り作業以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 草が濡れていたり、雨天のときは草刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

作業中

- エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上に置かないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
- 草刈り作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身および物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。特に左前方から右方向へ180°の範囲内は注意してください。
- 作業範囲内に人や動物、車などを近づけないでください。もし人や動物、車などが近づいたら作業を停止してください。また作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。
- 作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。刈取った草は滑りやすく転倒するおそれがあるので、走らず本機の速度に合わせて作業してください。
- 移動、方向転換するときは、刈刃を停止させ、走行クラッチレバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。

警告

作業中

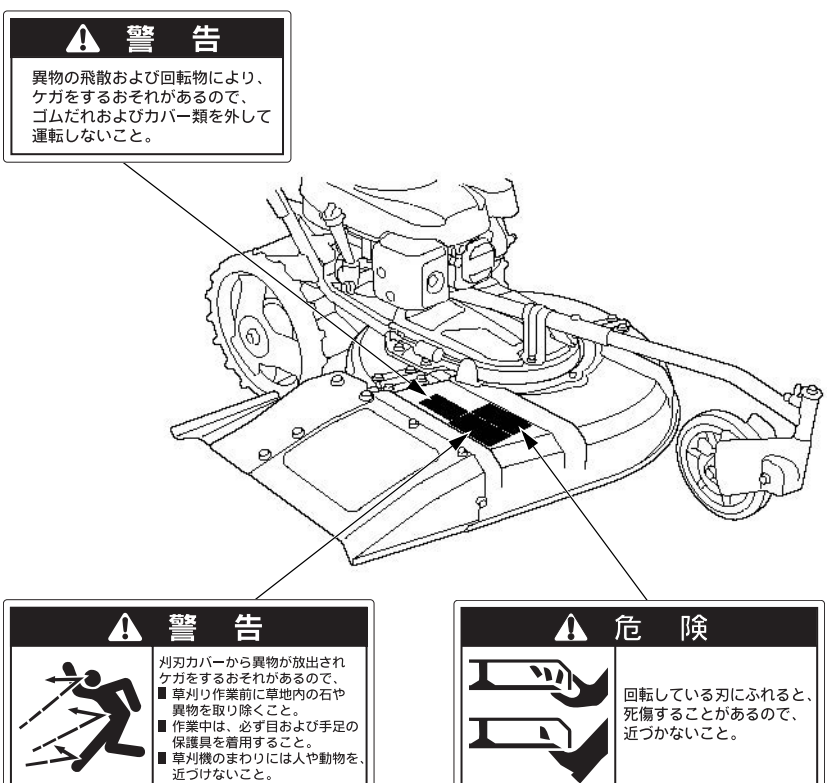
- 刈刃カバー内に刈取った草が詰まったときは、速やかに刈刃を停止させ、草の除去が安全に行える場所に本機を移動してください。移動後エンジンを停止し、点火プラグキャップを外し、厚手の手袋を着用して草の除去作業をしてください。
- 傾斜地での草刈りは、上下方向でなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。
- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- エンジン運転中は、刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 作業中本機や刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグキャップを外し（47 頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。

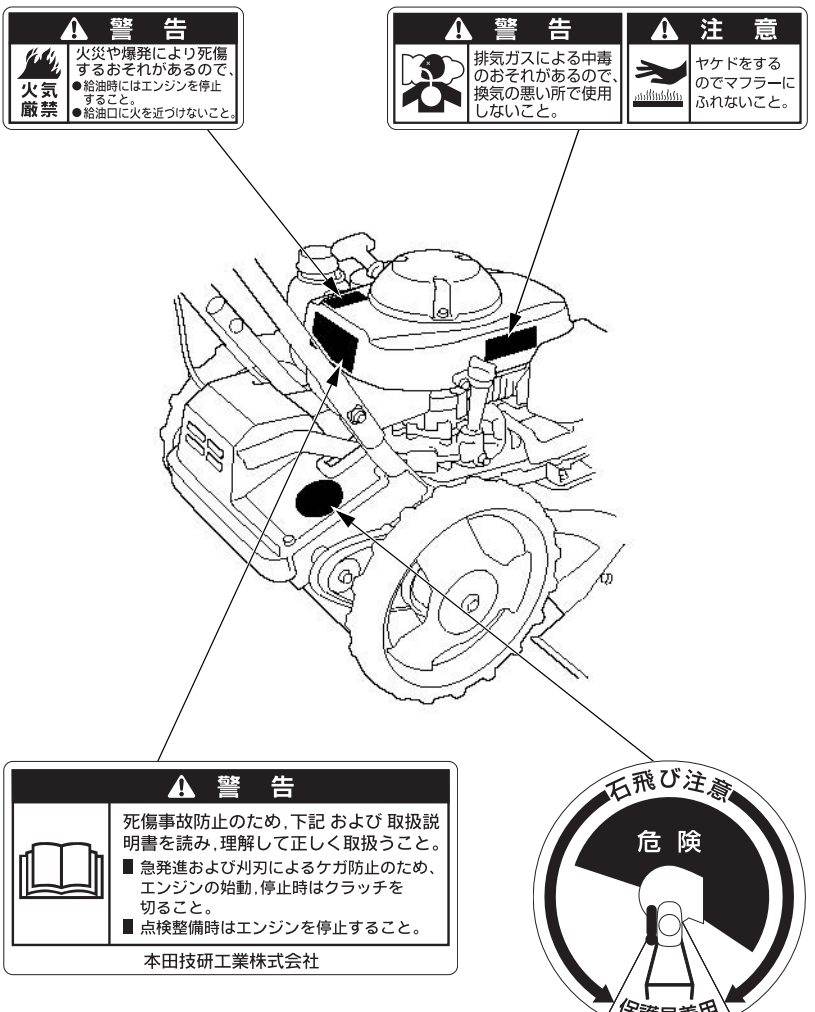
作業が終わったら

- 作業が終わり、本機を移動する場合は刈刃を停止させ、刈取り高さの調整が行える安全な場所に移動し、エンジンを停止してから刈取り高さを最も高い位置にしてください。
- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料を抜いてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため､本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店にお問い合わせください。



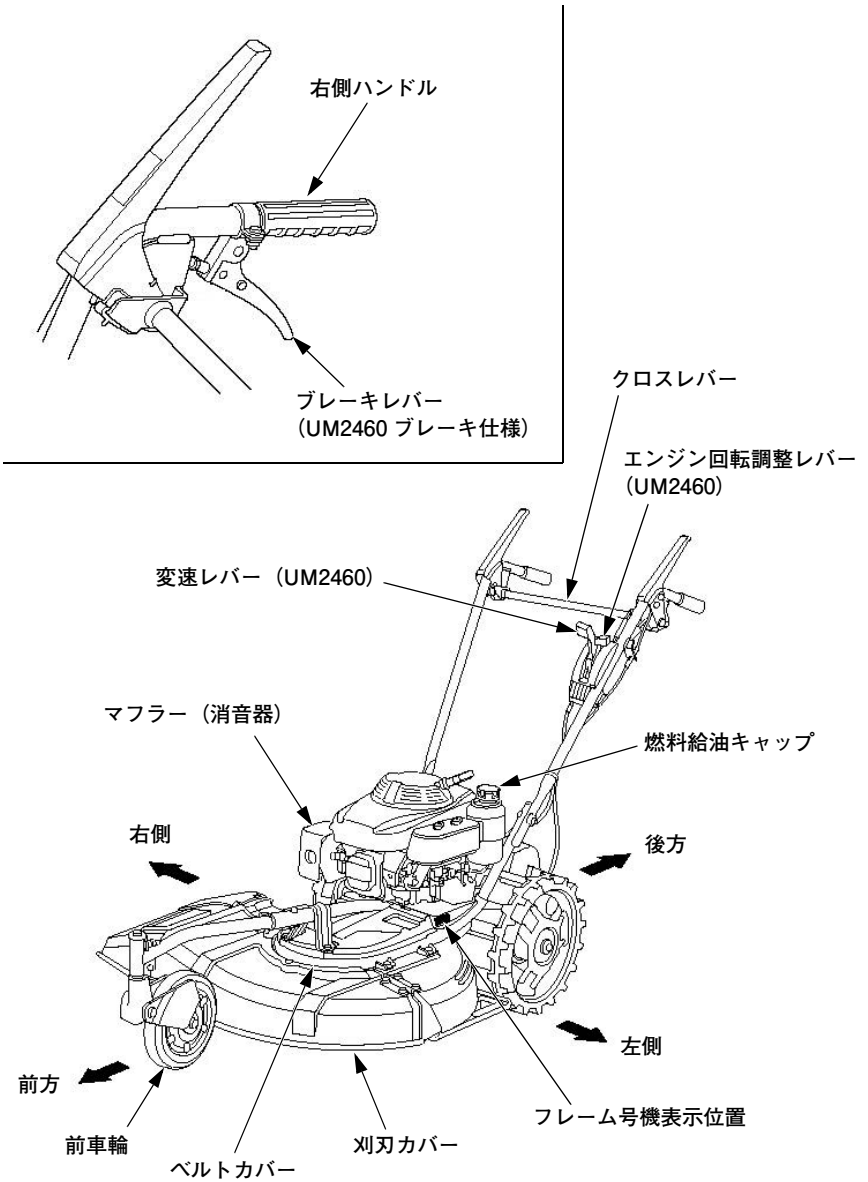

⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
⚠ 警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 警 告
死傷事故防止のため,下記 および 取扱説明書を読み,理解して正しく取扱うこと。
■ 急発進および刈刃によるケガ防止のため、エンジンの始動,停止時はクラッチを切ること。
■ 点検整備時はエンジンを停止すること。
本田技研工業株式会社
石飛び注意
危 険
保護具着用

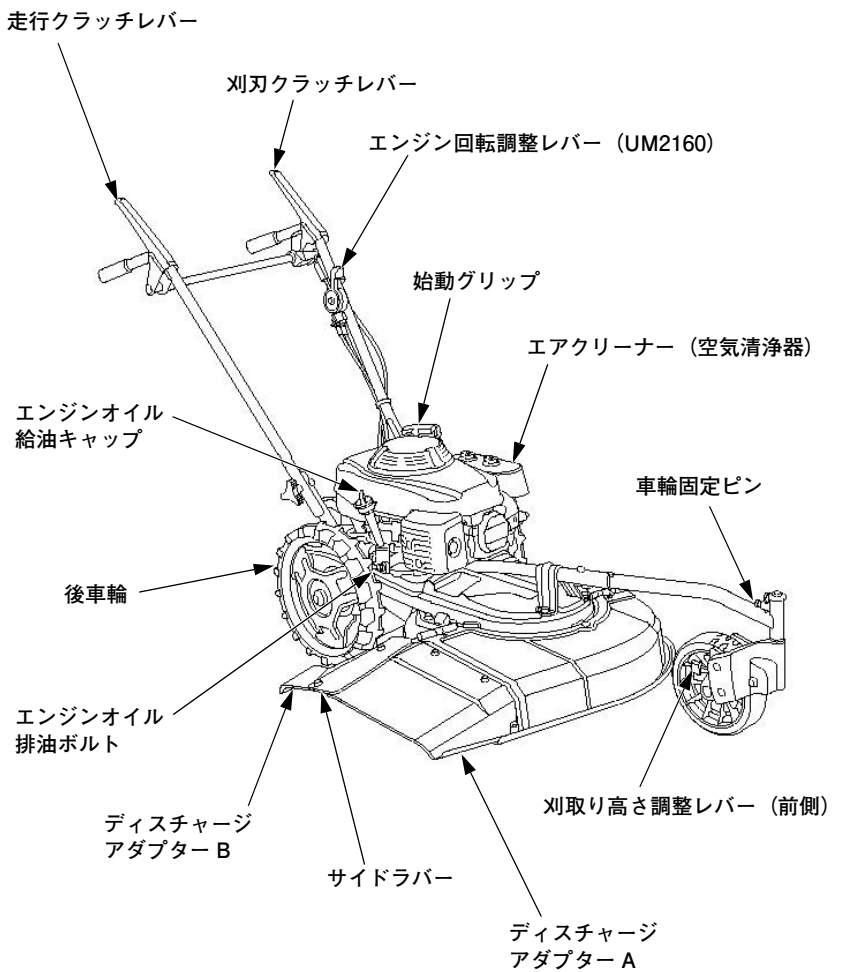
サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不審な点、またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は、商品名とフレーム号機（10 頁参照）をご連絡くださるようお願いいたします。
Honda が認めていない改造や仕様の限度を越える使用は、保証の対象外になるのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

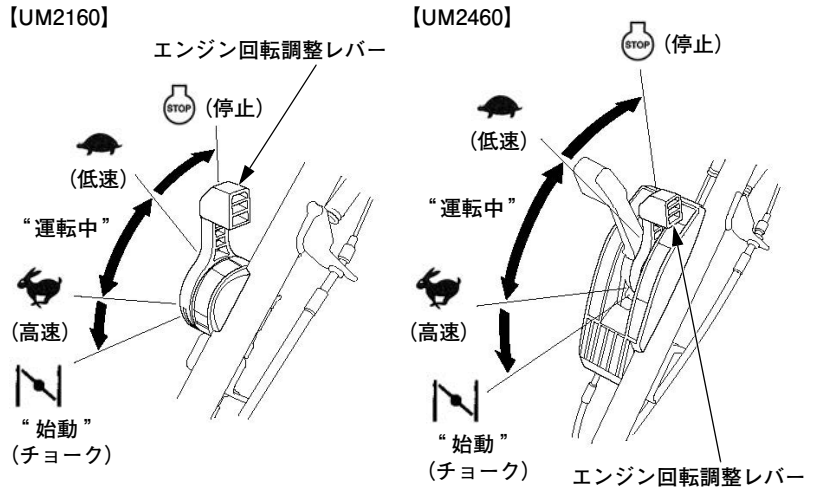
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




走行クラッチレバー
刈刃クラッチレバー
エンジン回転調整レバー（UM2160）
始動グリップ
エアクリーナー（空気清浄器）
エンジンオイル
給油キャップ
車輪固定ピン
後車輪
エンジンオイル
排油ボルト
刈取り高さ調整レバー（前側）
ディスチャージ
アダプター B
サイドラバー
ディスチャージ
アダプター A

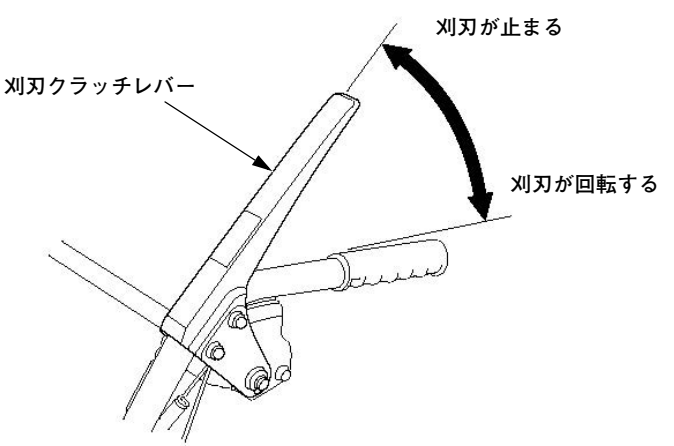
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



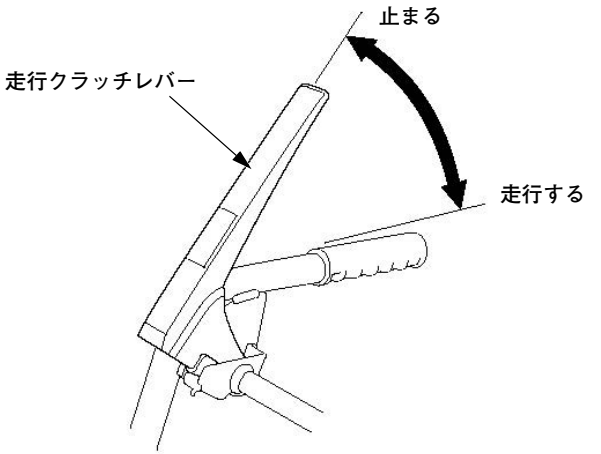
刈刃クラッチレバー

刈刃クラッチレバーを握ると刈刃が回転し、放すと刈刃は止まります。



走行クラッチレバー

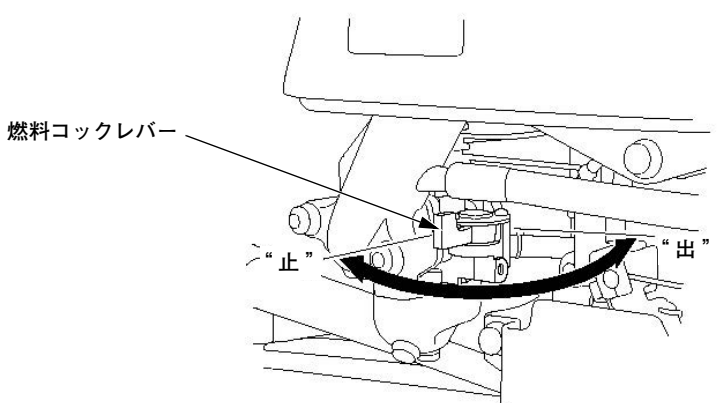
走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと止まります。



・ 刈刃クラッチレバーと走行クラッチレバーには、連動機構が装備されています。(33 頁参照)

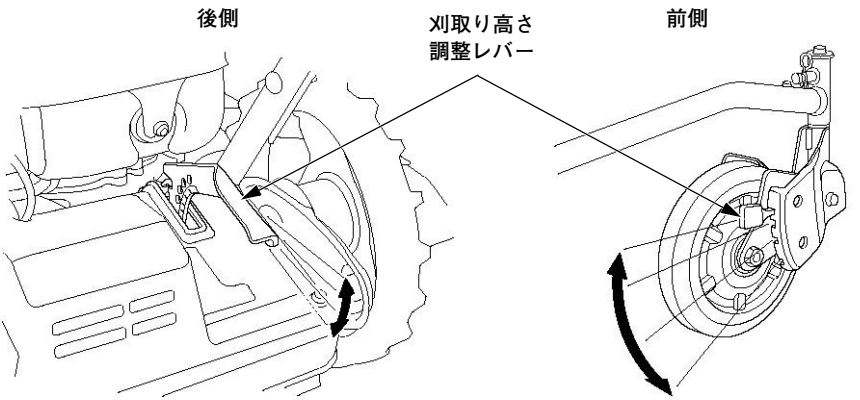
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に **“出”**、**“止”** の位置に合わせてください。



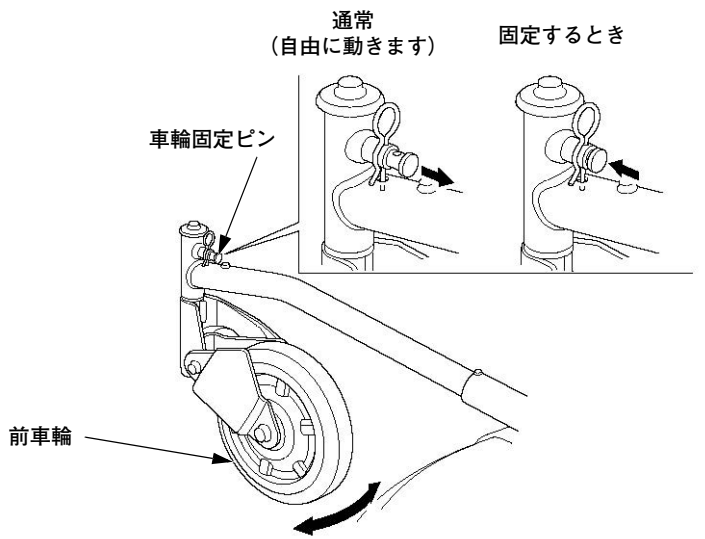
刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するときに操作します。
レバーを操作して位置を変えることにより前後 4 段階に刈取り高さを調整できます。(34 頁参照)



車輪固定ピン

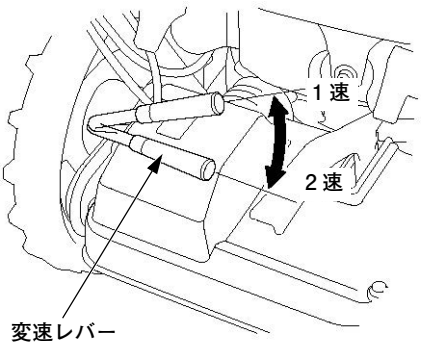
前車輪が左右に動かないように、固定するときに使用します。(36 頁参照)



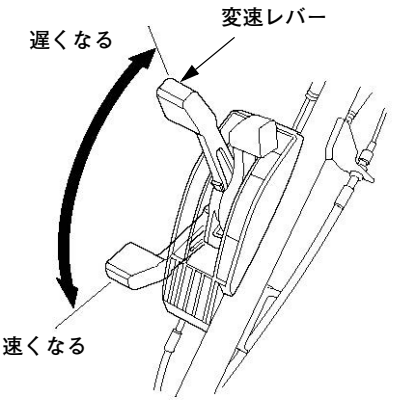
変速レバー

走行速度を変えるときに操作します。(UM2160 は 28 頁、UM2460 は 32 頁を参照)

【UM2160】

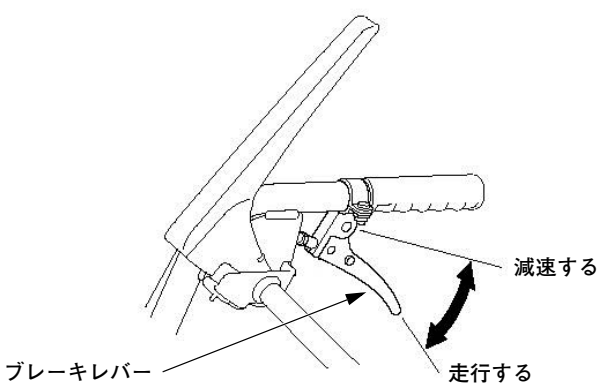


【UM2460】



ブレーキレバー（UM2460 ブレーキ仕様）

ブレーキレバーを握ると、ブレーキが作動します。
傾斜地で旋回するときや下り坂など自走速度よりスピードが速くなってしまう場合にブレーキレバーで速度を調整してください。



作業前に点検・調整をしましょう

⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にしてエンジンを止め、誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなく作業者や付近にいる人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時に本機が傾く可能性がある場合には、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを“止”の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火することがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり …… 燃料の量（17、18 頁参照）、エンジンオイルの量（19 頁参照）が規定量入っていること。
  燃料の漏れ、オイルの漏れがないこと。
  エンジンまわりにゴミ、枯れ草などがないこと。
- レバーの作動 …… レバーの遊び量（49 ～ 54 頁参照）が規定どおりであること。
  引っかかりがなく、スムーズに作動すること。
- 各部の締付け …… 刈刃まわりにゆるみがないこと。
  そのほかのボルト、ナットにゆるみがないこと。
- 配線、ケーブル類 …… 被覆のやぶれや切れがないこと。
  配線、ケーブルのはさまりがないこと。
- エンジンの始動、停止 … エンジン始動時に異音がないこと。
  エンジン回転調整レバー “

” （停止）位置で確実に停止すること。
- 刈刃の点検 …… 刈刃の締付けボルトのゆるみ、刈刃の摩耗、曲がり、欠損がないこと。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店にお申しつけください。

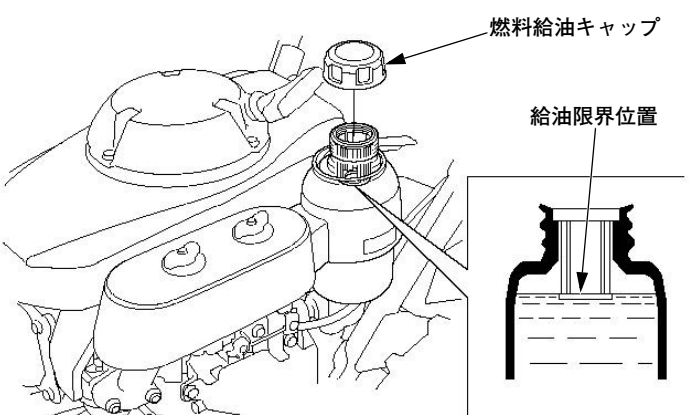
燃料の点検

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点検

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）まで燃料があることを確認します。
少ない場合は補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないようにガソリンを補給します。レベルより上まで補給すると、ガソリンが漏れることがあります。
- 給油後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

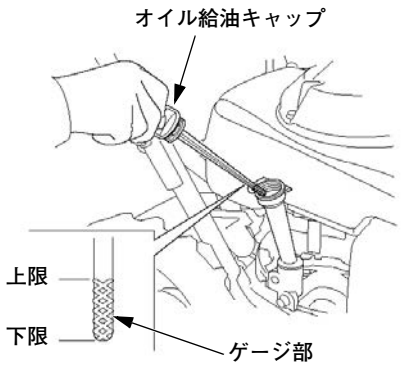
取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

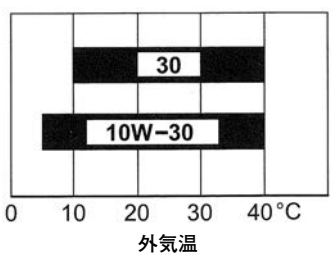
エンジンオイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は 43 頁参照)

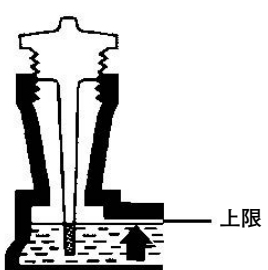


エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



補給

・ オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。



・ 推奨オイル
Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

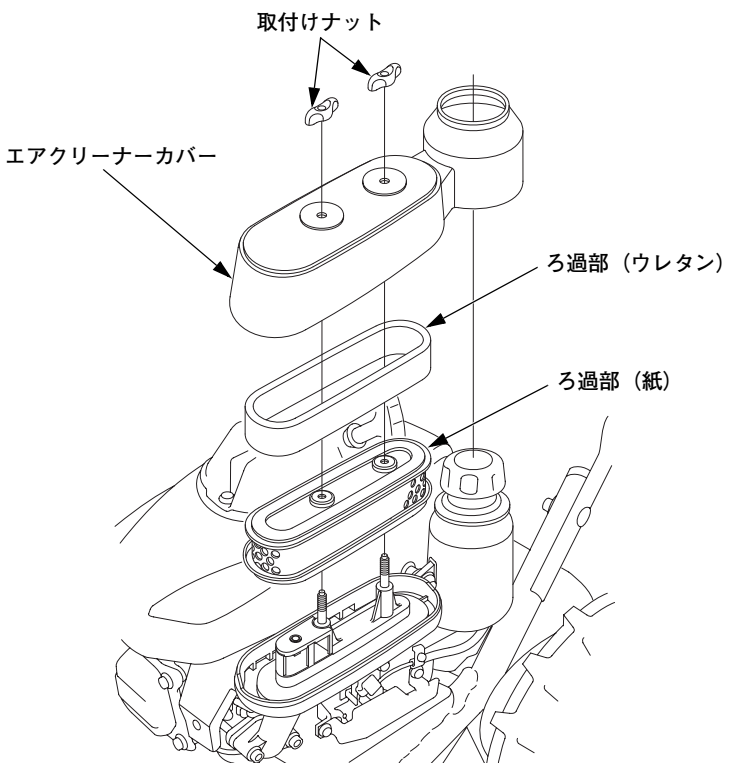
エアクリーナー（空気清浄器）の点検

点検

1. 取付けナットを外し、エアクリーナーカバーを外します。
2. ろ過部（ウレタン、紙）が汚れていないことを確認します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（45 頁参照）

取扱いのポイント

- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、ホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与える原因になります。



刈刃の点検

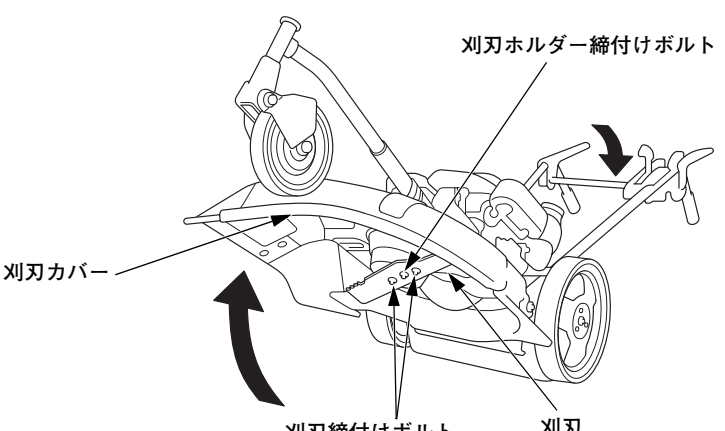
⚠ 警告

- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
- 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップを外してから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 刈刃の点検は、一人で行わず必ず二人で行ってください。ハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないようにしてください。前部が落下すると本機の下敷きになりケガをするおそれがあります。

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料コックレバーを“**止**”にします。(41 頁参照)
3. 本機を後側へ傾斜させハンドルを地面に接地させた状態で刈刃カバー内を清掃し、刈刃を点検してください。

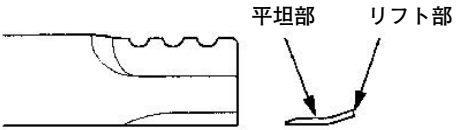
取扱いのポイント

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。



4. 刈刃の締付けがゆるんでいないことを確認します。
5. 刈刃の割れ、欠損、曲がり、摩耗がないことを確認します。

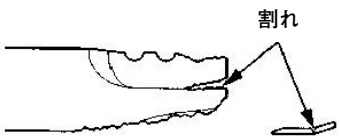
新品



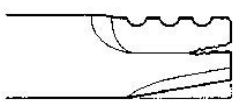
・ 下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。

交換

割れ



⚠警告
特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。



欠損



曲がり



摩耗



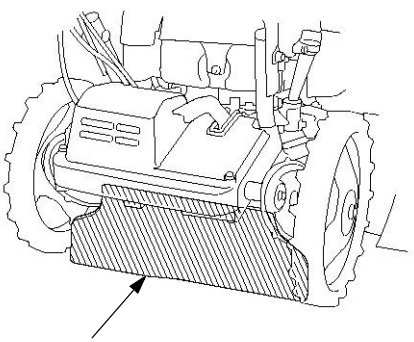
・ 乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いため、頻繁に点検してください。

リアプロテクターラバー、サイドラバーの点検

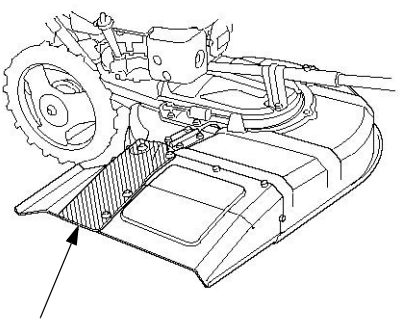
ラバーに損傷（深い傷や欠けなど）がなく正しく取付けられていることを確認してください。
損傷しているときには交換してください。

⚠警告

プロテクター類を取外したままで刈取り作業をしないでください。また損傷したままでの作業もしないでください。刈刃の回転力により石飛びなどが発生し重大な事故を起こすおそれがあります。



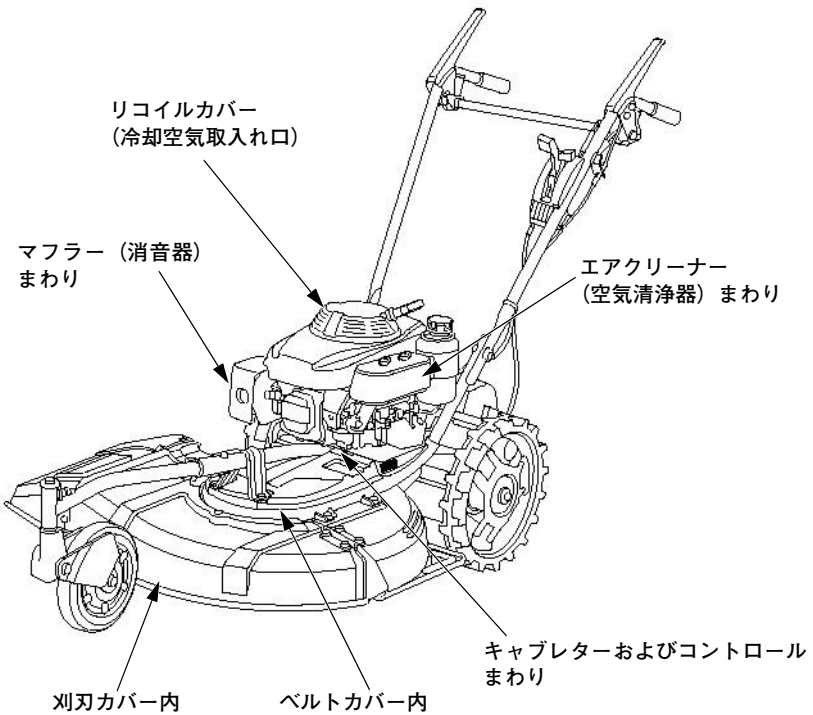
リアプロテクターラバー



サイドラバー

各部の清掃

本機（特に下記指定箇所）に刈った草やホコリが付着していないことを確認し、汚れているときには十分清掃してください。



取扱いのポイント

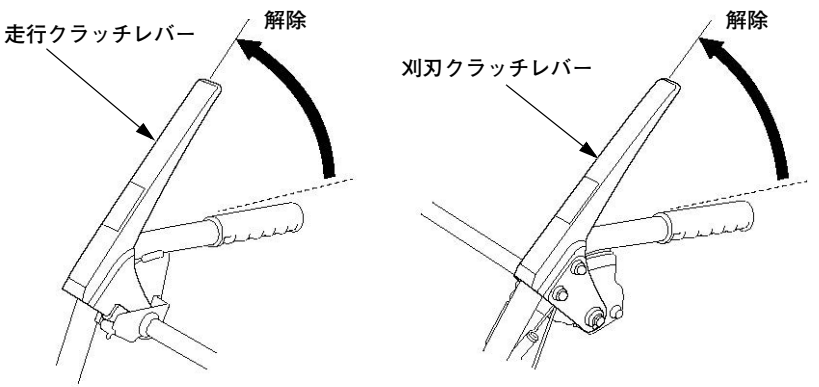
清掃をするときキャブレター、エアクリーナー、マフラー排気口に水をかけないでください。エンジン不調の原因となります。

エンジンのかけかた

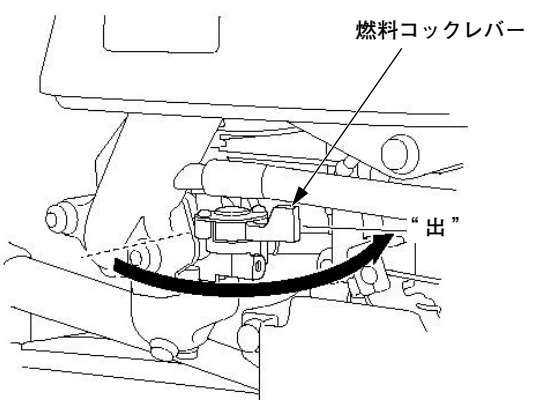
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

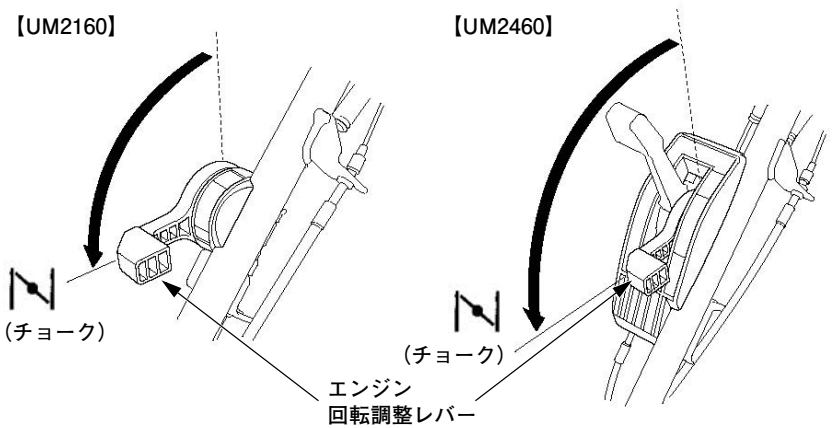
1. 走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーから手を放し、解除されていることを確認してください。



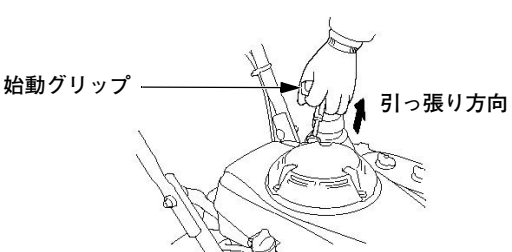
2. 燃料コックレバーを **“出”** に合わせます。



3. エンジン回転調整レバーを “ ” (チョーク)の位置に合わせます。エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときには “ ” (高速) の位置に合わせます。



4. 始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
   - エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
   - 始動グリップを引くとき、後方に人がいないことを確認してください。



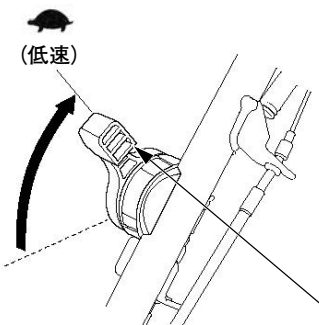
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや周りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

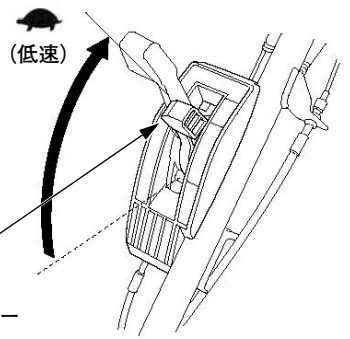
5. 2～3分間暖機運転を行います。

“ ”（チョーク）の位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら “ ”（低速）の位置に合わせます。

【UM2160】



【UM2460】



エンジン回転調整レバー

運転操作のしかた

草刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり草刈り作業をしてください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1 エンジン始動

「エンジンのかけかた」に従ってエンジンを始動します。(25 頁参照)

2 運転操作（UM2160）

UM2460 の運転操作は 31 頁を参照してください。

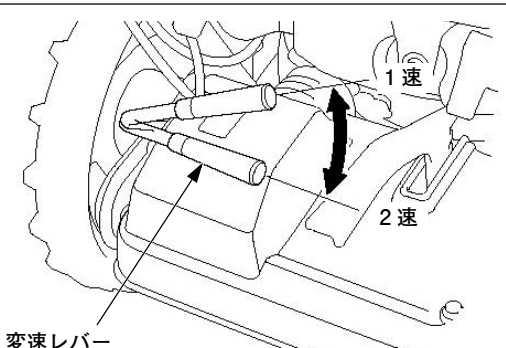
1. 変速レバー

作業内容により 1 速または 2 速を選んでください。

変速位置	適応作業
1 速	草刈り（狭い場所、長い草など)、移動、トラックへ積み降ろし
2 速	草刈り（平坦な広い場所)、移動

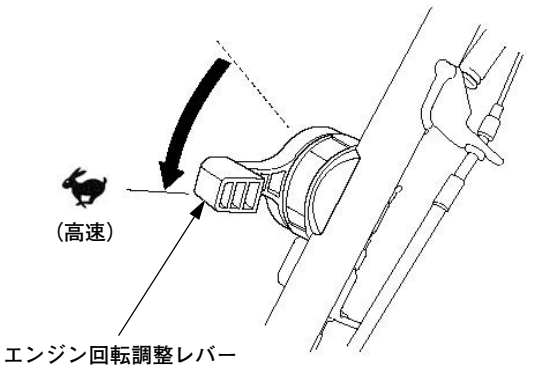
取扱いのポイント

走行中は変速しないでください。必ず走行クラッチレバーを “止” にしてから操作してください。走行中に変速したり足で操作すると変速しなかったり故障の原因になることがあるので絶対行わないでください。



2. エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを “🐇” （高速）にします。

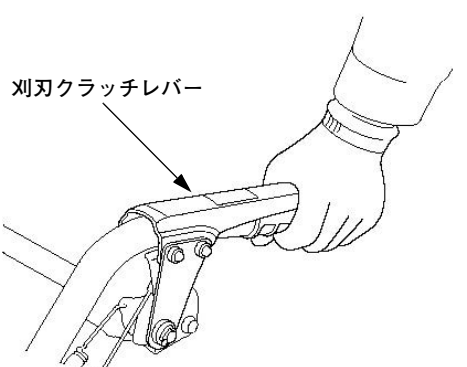


⚠ 注意

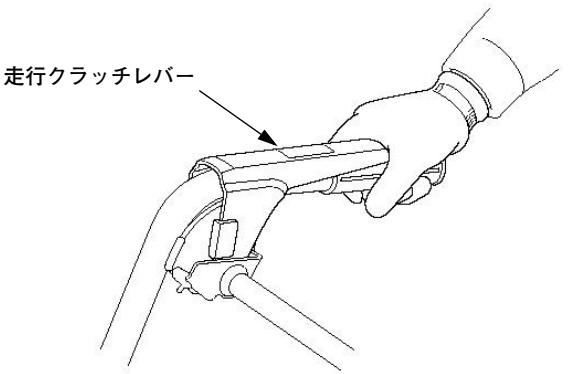
急発進による事故や、刈刃によるケガなどを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

3. 刈刃クラッチレバー

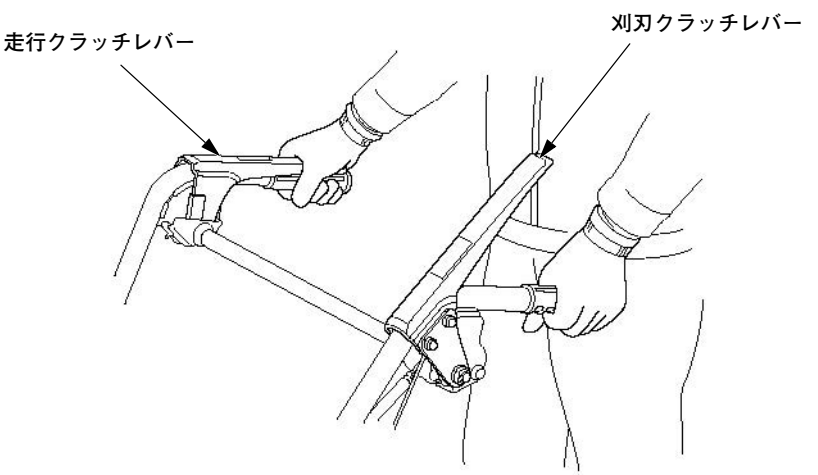
刈刃クラッチレバーを握り刈刃を回転させます。



4. 走行クラッチレバー
走行クラッチレバーを握ります。



刈刃クラッチレバーと走行クラッチレバーの連動手順（33 頁参照）
・ 刈取り作業のときは、刈刃クラッチレバーを先に操作してください。
・ 移動のときは、走行クラッチレバーのみ操作してください。



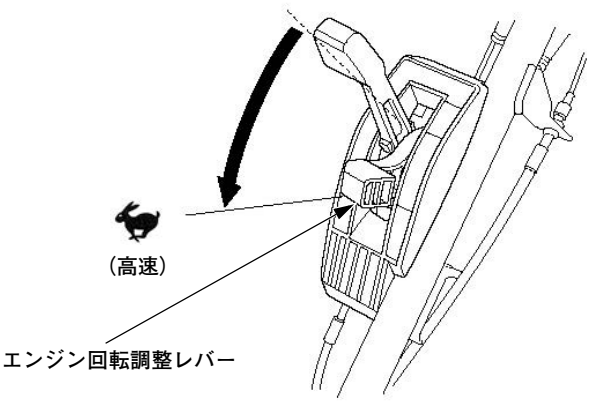
2 運転操作（UM2460）

⚠ 注意

急発進による事故や、刈刃によるケガなどを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

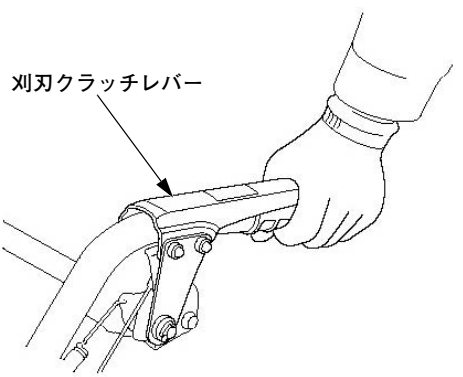
1. エンジン回転調整レバー

変速レバーが“**低**”（低速）の位置にあることを確認し、エンジン回転調整レバーを“🐇”（高速）にします。

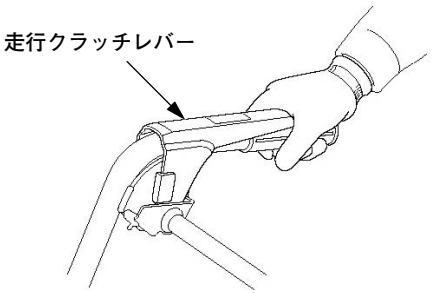


2. 刈刃クラッチレバー

刈刃クラッチレバーを握り刈刃を回転させます。



3. 走行クラッチレバー
走行クラッチレバーを握ります。

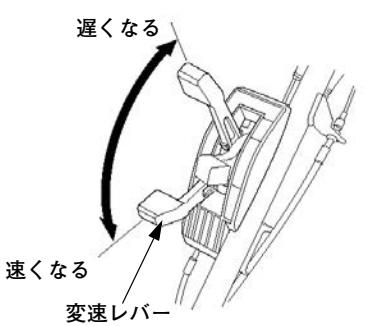


4. 変速レバー
刈刃クラッチレバーから手を放し、作業内容に合わせて変速レバーを調整して車速を設定します。

変速位置	適応作業
遅く～	草刈り（狭い場所、長い草等）、移動、トラックへの積み降ろし
～速く	草刈り（平坦な広い場所）、移動

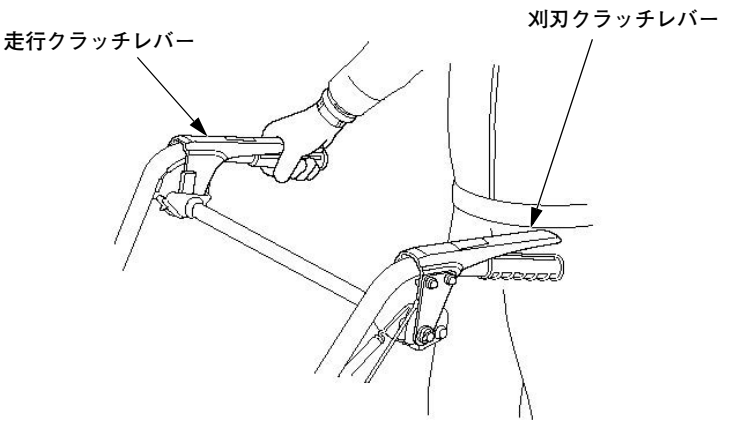
取扱いのポイント

走行中変速することができます。作業内容に合わせて変速レバーを調整してください。（刈刃クラッチレバーから手を放しても走行クラッチレバーと連動しているため、作業を中断することなく車速の変速が行えます。）

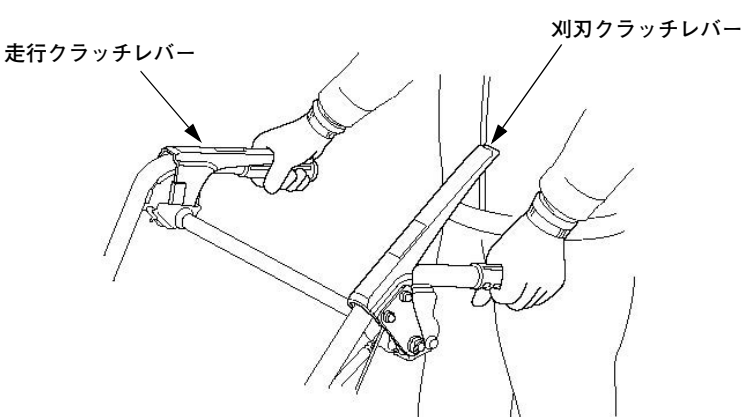


刈刃クラッチレバーと走行クラッチレバーの連動手順（UM2160、UM2460）

1. 刈刃クラッチレバーを握りながら次に走行クラッチレバーを握ります。
2. 刈刃クラッチレバーを放しても、刈刃クラッチレバーは固定され、草刈りと走行ができます。この状態から走行クラッチレバーを放せば、刈刃の回転が止まり本機が停止します。



・ 刈取り作業のときは、刈刃クラッチレバーを先に操作してください。
・ 移動のときは、走行クラッチレバーのみ使用してください。



3 刈取り作業

1. 刈取り高さの調整

⚠ 警告

- 刈取り高さの調整をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- 前側（前車輪）の調整はフロントホイールステーを持ち上げて行ってください。フロントホイールステーを持ち上げないで調整すると、本機の重みで下がりケガをするおそれがあります。

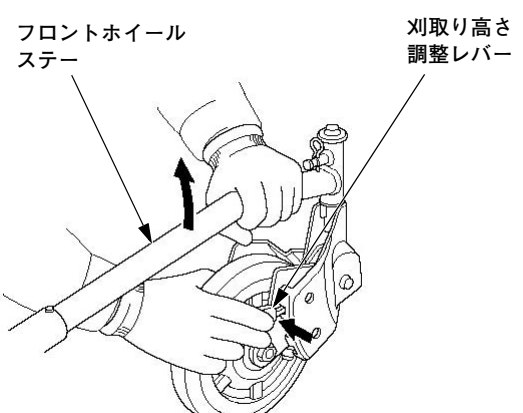
・ 刈取り高さ調整レバーにより 4 段階まで調整できます。

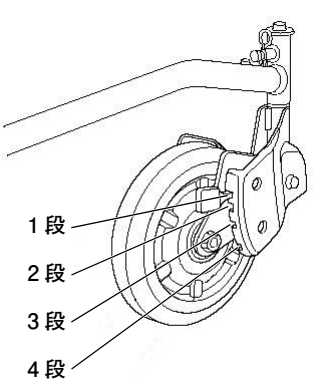
	1 段	2 段	3 段	4 段
UM2160	15 mm	30 mm	50 mm	75 mm
UM2460	10 mm	25 mm	45 mm	70 mm

・ 刈取り高さの調整は前側（前車輪）、後側とも同じ高さに調整してください。

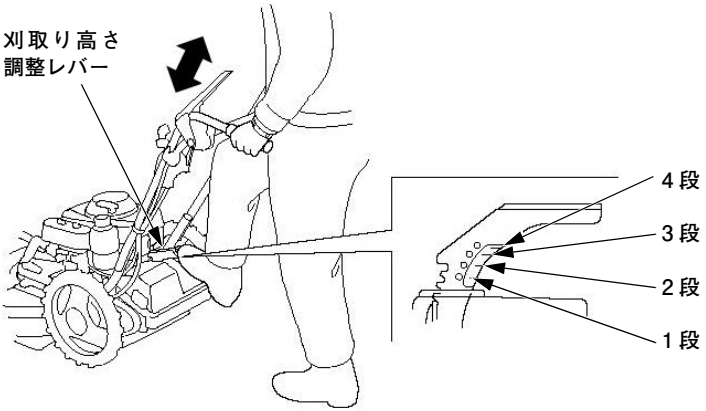
・前側（前車輪）

フロントホイールステーを片手で少し持ち上げてから刈りたい高さにレバーで調整してください。





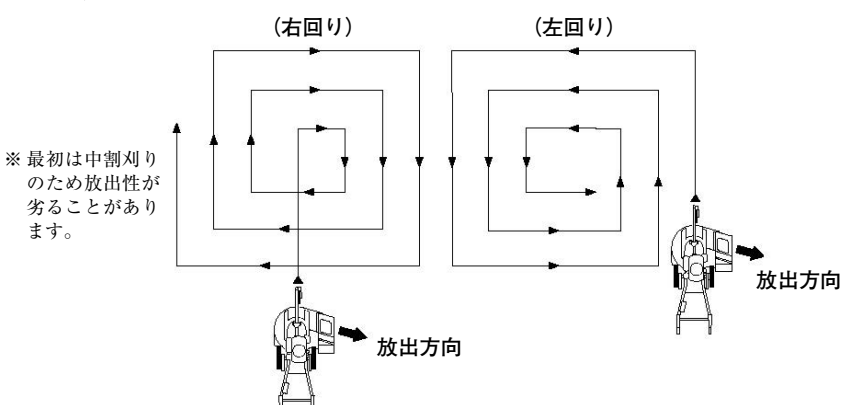
・後側
ハンドルを両手で支え、刈取り高さ調整レバーを踏み込み、ハンドルを上下に動かして高さを調整してください。



● 刈取り作業はエンジン回転を落とさず行うことが重要です。下記の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

2. 刈取りパターン

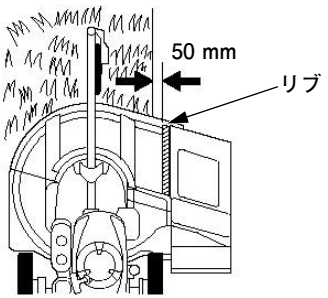
刈取った草の放出性をより良くするため、次のような刈りかたをおすすめします。



・ 木の下、垣根のわきなどの草刈りは刈刃クラッチレバーのみを握り、手押し刈りを行います。

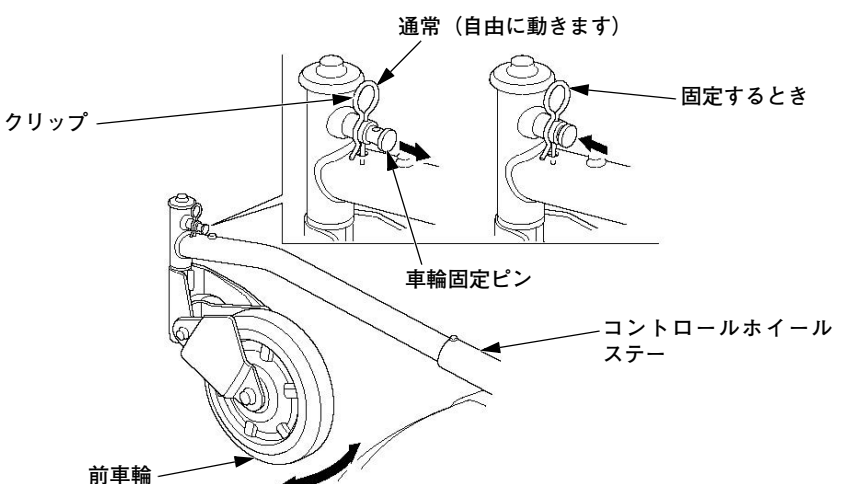
3. 刈取りの目安

ハウジング右側のリブが刈刃幅になっています。
50 mm ぐらいの内側を刈取り目安としてください。



4. 斜面

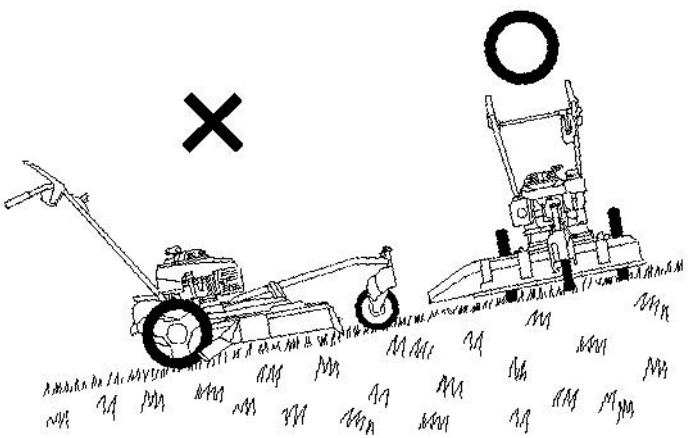
- 斜面で使用するときは、前車輪が左右に動かないように車輪を固定して使用してください。
- 固定するとき … 前車輪をフロントホイールステー真下の位置にして、クリップを抜き車輪固定ピンを押込んでください。
  ピンが入らないときは前車輪を左右に少し移動しながら入れてください。
  クリップを確実に穴に入れてください。



・ 斜面での草刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
・ 斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
・ 20° 以上の斜面では草刈機を使用しないでください。
・ 斜面での草刈りは必ず 1 速で行うか（UM2160）、十分速度を落として行ってください（UM2460）。

⚠ 警告

斜面で本機を駐車させないでください。転倒や暴走により事故を引き起こすおそれがあります。



5. 起伏

起伏の多いところでの草刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

- **軟らかい密生した草などでエンジン回転が下がるときには、次のいずれかの方法により作業を行ってください。**

・ 走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行います。
・ エンジン回転が低下しない車速で作業を行います。
・ 草の条件に応じて刈幅をせばめます。
・ 刈取り高さを高くします。

- **つる草や異物（布、ロープ、針金など）の巻付きなどでエンジン回転が下がるときは、次の作業を行ってください。**

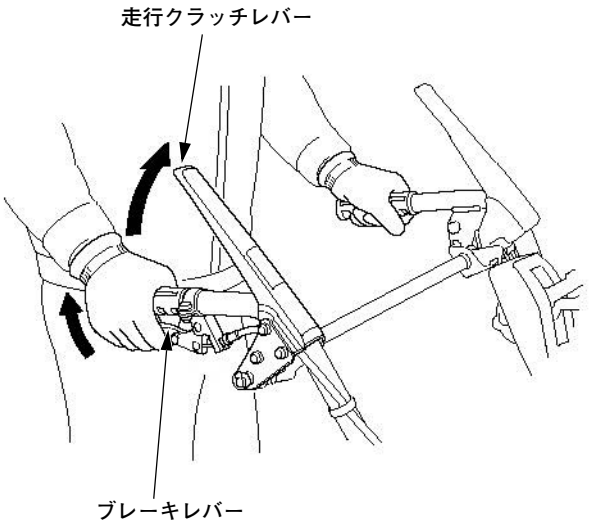
・ 直ちに走行を停止し、エンジンを止めてください。
・ 各部の回転が停止したのちに、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外します。
・ 後車輪に巻付いたつる草や異物を取除いてください。
・ つる草や異物を取除いた後作業に入る前に、本機の損傷の有無を点検してください。異常があった場合はお買いあげ販売店にお申し付けください。

取扱いのポイント

つる草や異物が巻付いたまま走行を続けると、トランスミッションを破損する原因となります。

6. ブレーキの使い方（UM2460 ブレーキ仕様）

傾斜地で旋回するときや下り坂など自走速度によりスピードが速くなってしまう場合にブレーキレバーで速度を調整してください。

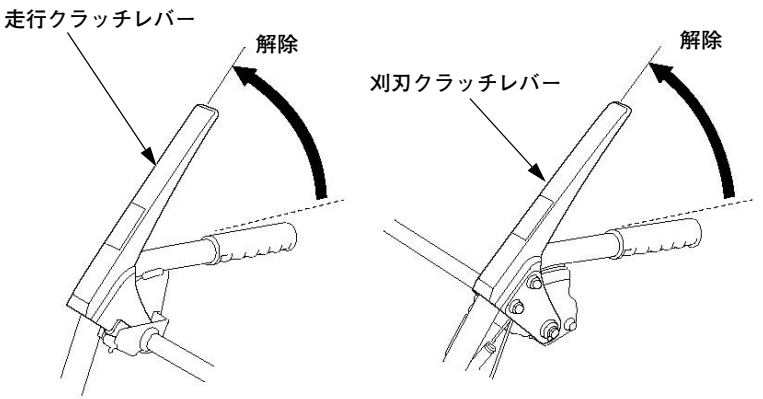


取扱いのポイント

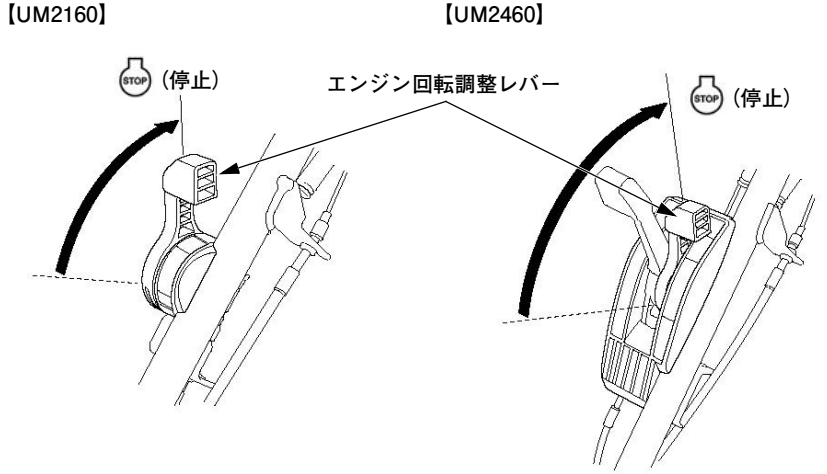
走行クラッチレバーを握った状態でブレーキレバーを握り、ブレーキを引きずりながら走行し続けると、トランスミッションが破損する原因となります。

エンジンのとめかた

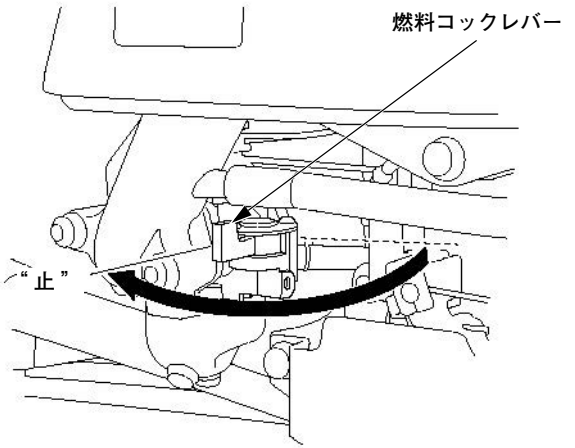
1. 走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーから手を放します。走行および刈刃の回転が停止します。



2. エンジン回転調整レバーを “STOP” （停止）にします。



3. 燃料コックレバーを “**止**” にします。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda草刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検整備項目 ＼ 点検時期（3）		作業前点検	初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または200時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検・補給	○					19
	交換		○		○		43
エアクリーナー	点検	○					20
	清掃			○（1）			45、46
	交換					○	
・刈刃、ホルダー締付けボルト ・刈刃の状態	点検	○					22、56
・サイドプロテクターラバー ・リアプロテクターラバー	点検	○					23
本機まわり各部	点検・清掃	○					16
刈刃ベルト	点検・調整				○（2）		－
刈刃クラッチケーブル	点検・調整				○		49
エンジン回転調整ケーブル	点検・調整				○（2）		－
走行クラッチケーブル（UM2160）	点検・調整		○		○		51
変速レバーケーブル（UM2460）	点検・調整		○		○		52
ハウジングケーブル	点検・調整				○		－
点火プラグ	点検・調整				○		47、48
	交換					○	
吸入、排気弁すき間	点検・調整					○（2）	－
燃料タンク、燃料フィルター	清掃					○（2）	－
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（2）					－
ブレーキレバーの遊び	点検	○					53
	調整		○		○		54
走行クラッチレバーカムかみ合い	点検・調整				○（2）		－
ブレーキドラムシューの摩耗	点検					○（2）	－
アイドルスピード	点検・調整					○（2）	－
燃焼室	清掃	250時間運転毎（2）（4）					－
トランスミッションオイル（HST）（UM2460）	点検					○（2）	－
	交換	1000時間運転毎（2）					

（1）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（3）点検時期は表示の期間毎又は運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検・整備のしかた

⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

エンジンオイルの交換

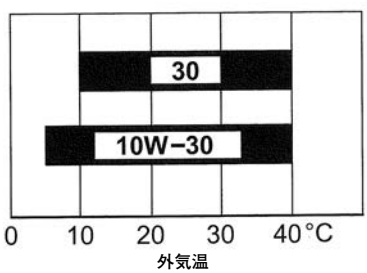
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

≪推奨オイル≫

Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE10W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30 オイルをご使用ください。

≪規定量≫ 0.65 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

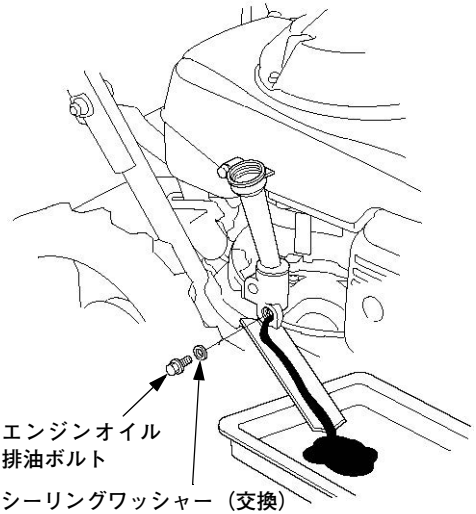


⚠注意

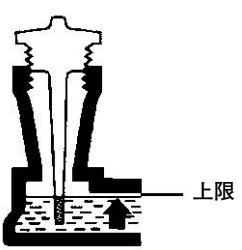
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドなどをするおそれがあります。

交換のしかた

1. オイル給油キャップを外します。
2. エンジンオイル排油ボルトを外して、オイルを抜きます。
   完全に抜けたらエンジンオイル排油ボルトを確実に締付けてください。このときシーリングワッシャーは新しい部品に交換してください。



3. エンジンオイルをオイル給油キャップのゲージ部で確認しながら、上限まで注入します。（19 頁参照）



4. 注入後、オイル給油キャップを手で確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃・交換

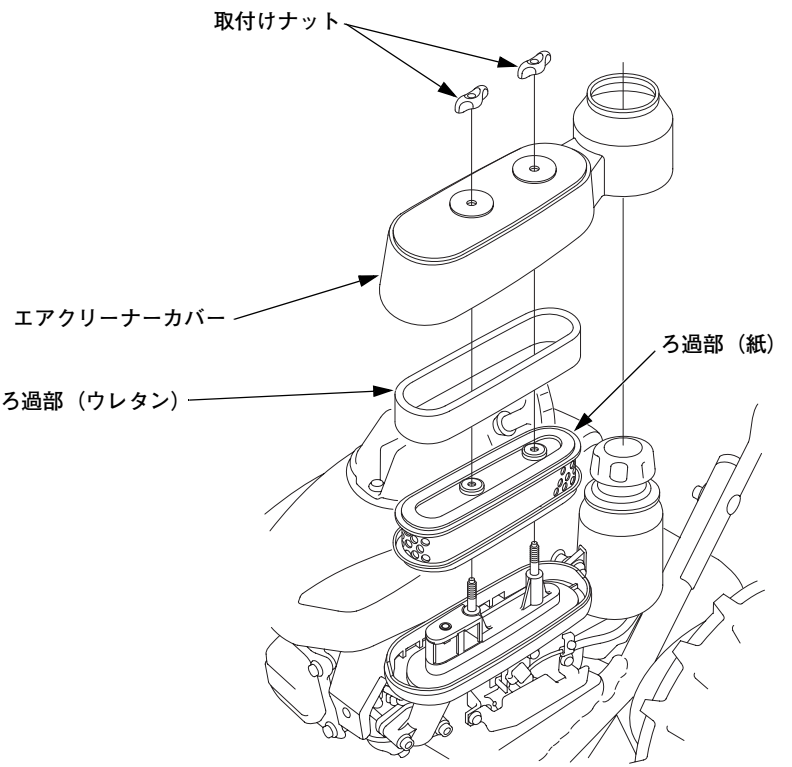
エアクリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなります。定期的に清掃しましょう。

⚠警告

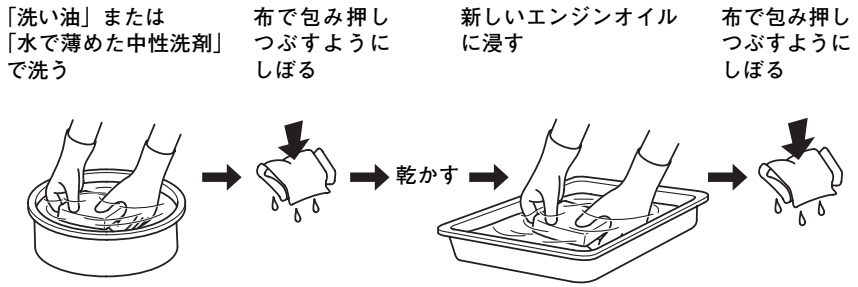
エアクリーナーの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

清掃のしかた

1. 取付けナットを外し、エアクリーナーカバーを外します。



2. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よくしぼって乾かします。オイルに浸した後、かたくしぼってください。



3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 清掃後、各部品を組付け、取付けナットを確実に締付けてください。エアクリーナーカバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。

取扱いのポイント

- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。
  締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検、調整、交換

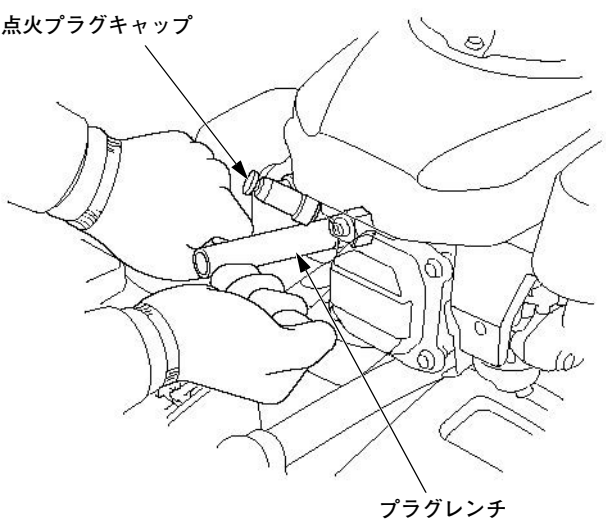
⚠注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

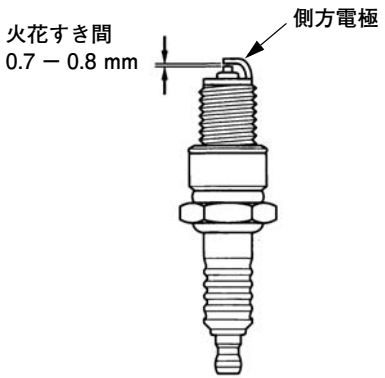
清掃のしかた

1. 点火プラグキャップを外します。
2. プラグレンチ（同梱工具）の穴に市販のドライバー等を組合せて、点火プラグを外します。
3. 点火プラグが汚れていたら清掃します。
   清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
   プラグクリーナーが無いときは、ワイヤーブラシで汚れを落してください。



調整

4. 側方電極をつめ、火花すき間を 0.7 − 0.8 mm に調整します。



≪標準プラグ≫

BPR5ES（NGK）
W16EPR-U（DENSO）

5. 取付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチの穴に市販のドライバー等を組合せて、確実に締付けます。
6. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・清掃・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

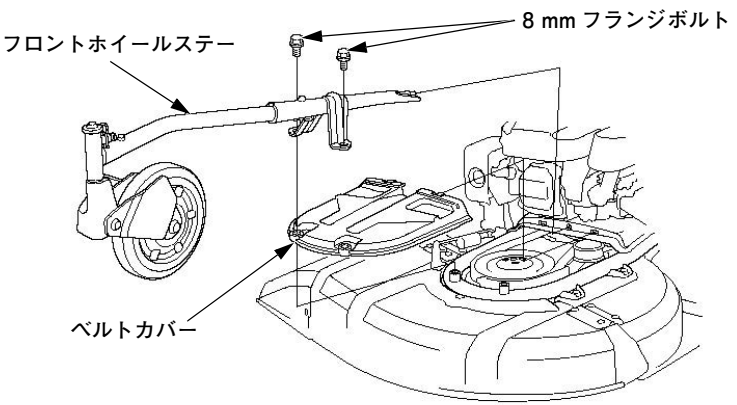
刈刃クラッチケーブルの点検・調整

刈刃クラッチケーブルの調整が完全でないと、ベルトがすべったり、刈刃が停止しなくなることがあります。

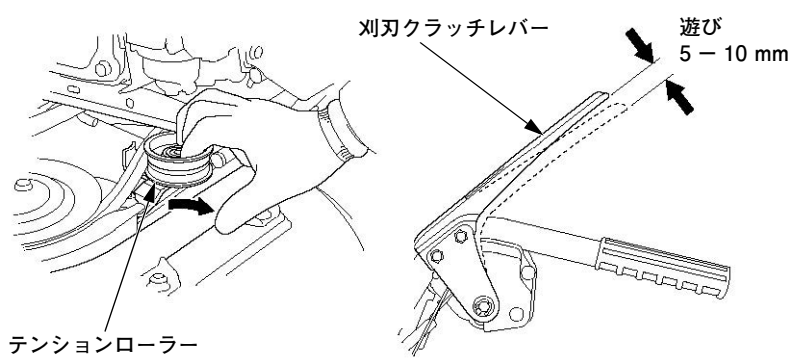
点検

刈刃クラッチレバー先端の遊びが5 − 10 mmになっていることを確認します。

1. 2本の8 mmフランジボルトを外し、フロントホイールステーとベルトカバーを外します。

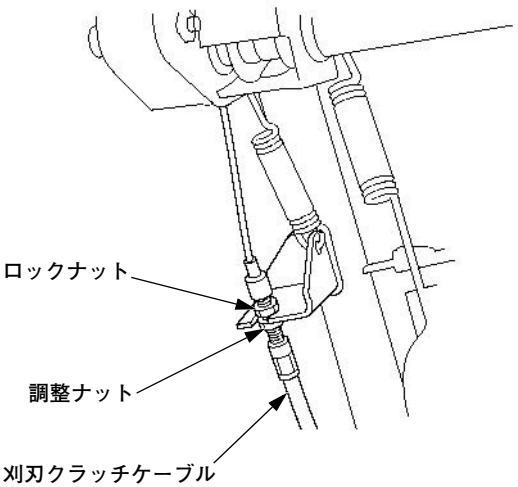


2. 刈刃ベルトのテンションローラーを矢印方向に引きながら刈刃クラッチレバーの遊びが規定寸法であることを確認します。



調整

1. ロックナットをゆるめ、調整ナットを回して規定寸法になるように調整してください。
2. 調整後、調整ナットを固定しながらロックナットを確実に締付けます。



走行クラッチケーブルの点検・調整（UM2160）

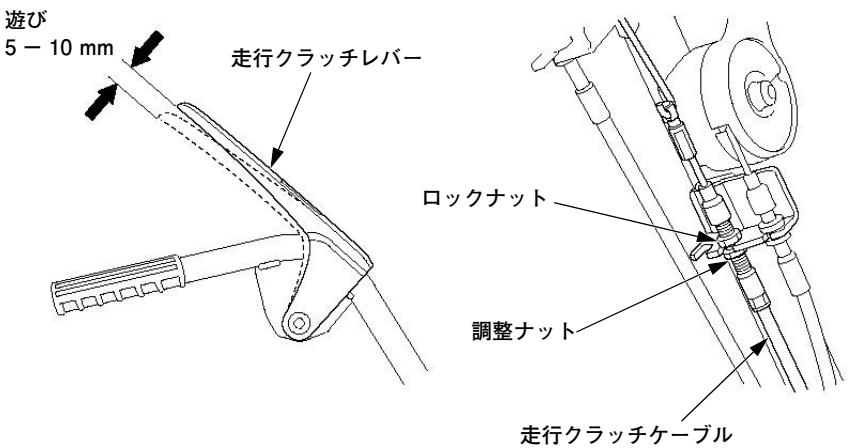
走行クラッチケーブルの調整が完全でないと、クラッチが切れなくなったり、すべったりすることがあります。

点検

走行クラッチレバー先端の遊びが5 − 10 mmになっていることを確認します。

調整

1. ロックナットをゆるめ、調整ナットを回して規定寸法になるように調整してください。
2. 調整後、調整ナットを固定しながらロックナットを確実に締付けます。



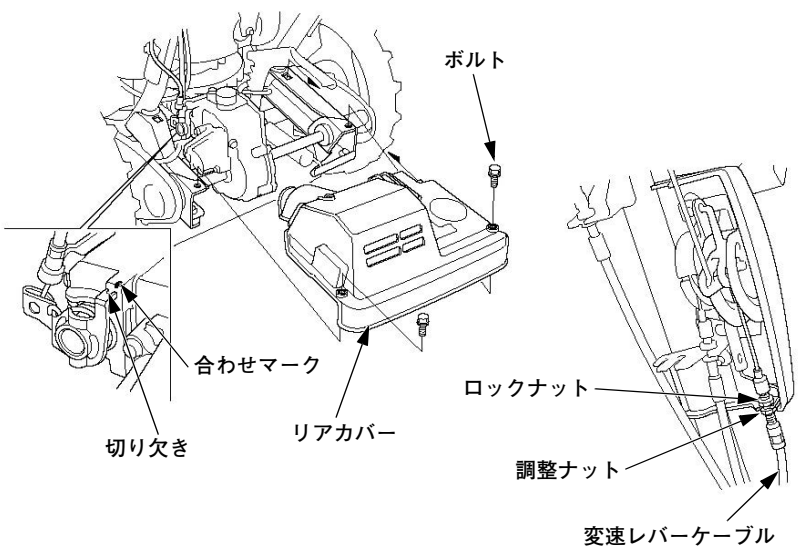
変速レバーケーブルの点検・調整（UM2460）

点検

1. ボルト２本を外し、リアカバーを外します。
2. 変速レバーをいっぱいに引き上げ最低速の位置にします。
3. 無段変速機の合わせマークと調整アームの切り欠きが合っていることを確認します。

調整

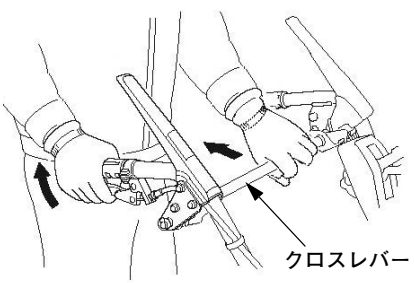
1. 走行クラッチレバーをいっぱいに握った状態で無段変速機の合わせマークと調整アームの切り欠きが合っていることを確認します。
2. 調整はロックナットをゆるめ、調整ナットを回して行います。
3. 調整後、調整ナットを固定しながらロックナットを確実に締付けます。

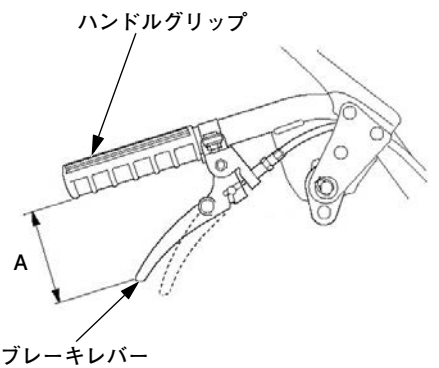


ブレーキレバーの点検・調整（UM2460 ブレーキ仕様）

点検

平らな場所で右手でブレーキレバーを握りながら、左手でハンドルのクロスレバーを後方へ水平に引きます。このとき前輪が浮かないように注意してください。ブレーキレバーを徐々に握り込みながら、後輪がロックし滑り出したときのレバー先端とハンドルグリップの距離 A が 35 mm 以上であることを確認します。
距離 A が 35 mm 以下の場合、調整してください。

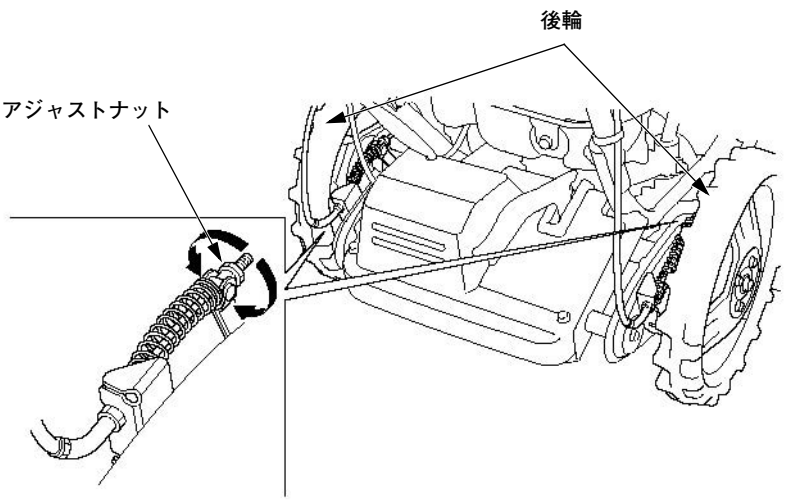




調整

1. 左右のアジャストナットを同一回転数回し、距離 A を 50 − 60 mm に調整します。
2. 調整後、後輪を浮かし、手で軽く回し、ブレーキの引きずりがないことを確認します。

● 正しく調整できない場合、他の点検・調整が必要です。お買いあげ販売店にお申しつけください。



長期間使用しないときの手入れ

長時間運転しない場合、または作業を終わり長時間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

・ 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近付けないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

⚠注意

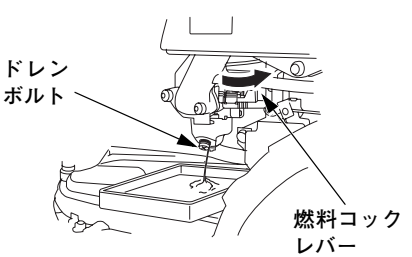
- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを点火プラグから取外してください。
- エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

1 燃料タンク、キャブレター（気化器）内の燃料を抜いてください。

燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。

1. 燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。

2. キャブレター内の燃料は、燃料コックレバーを **“出”** にしてドレンボルトを1～2回転ゆるめ、容器に受けてください。
   完全に燃料が抜けたらドレンボルトを確実に締付け、燃料コックレバーを **“止”** にし、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

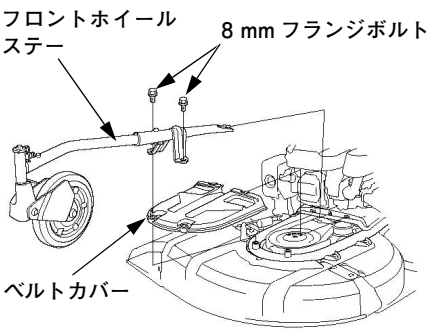


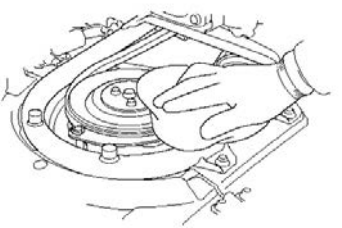
取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

2 ベルトカバー内部を清掃してください。

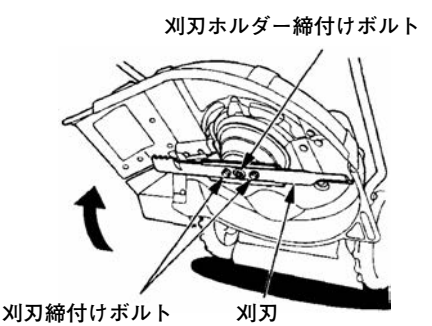
1. 8 mm フランジボルト 2 本を取外し、フロントホイールステーとベルトカバーを取外した後、ベルトカバー内部を清掃してください。
2. ベルトカバー内部を清掃した後、確実にフロントホイールステーとベルトカバーを取付けてください。



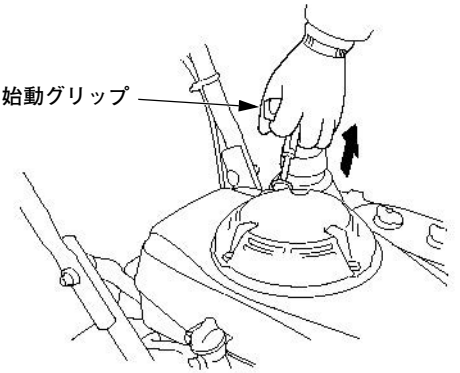


3 刈刃および各部を清掃し、締付け点検をしてください。刈刃にエンジンオイルを塗布してください。

刈刃の点検は必ず二人で行ってください。(21 頁参照)



4 片手でハンドルを支え始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



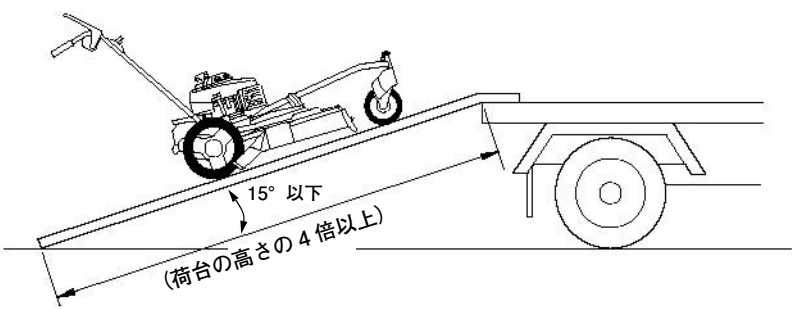
5 屋根のある場所に保管してください。

車への積み降ろしのしかた

⚠警告

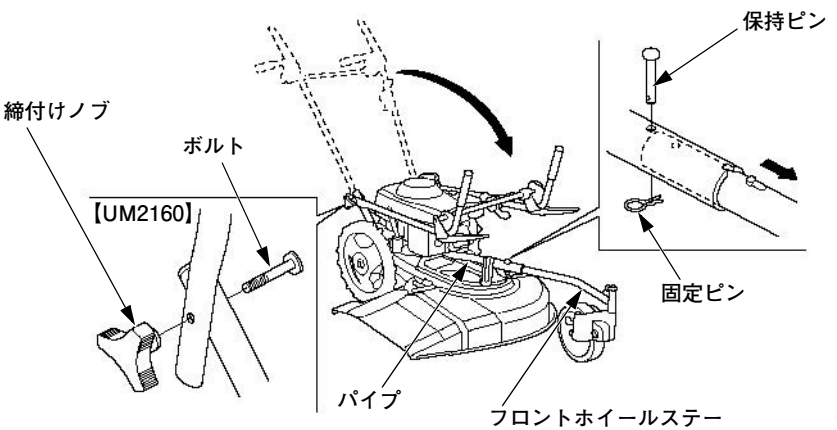
車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、ゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

1. 車への積み降ろしは平坦場所で、アユミ板を使用して行ってください。
2. 使用するアユミ板は、全装備重量＋作業者の体重に耐えられるもので、滑りどめ、はずれ防止フックがあり、タイヤ幅以上の幅がある物を使用してください。
   全装備重量： 63 kg（UM2160）、71 kg（UM2460）、
   74 kg（UM2460 ブレーキ仕様）
3. アユミ板の傾斜角度が 15 度以下になるような長さの物を使用してください。（目安として荷台の高さの 4 倍以上の長さ。）



4. アユミ板は車に対し真直ぐ、しっかりとかけてください。
5. アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
6. ハンドルをしっかり保持し、十分に速度をおとしてゆっくり行ってください。
7. 積載後、本機のエンジンを止め、燃料コックレバーを **“止”** の位置に合わせ、UM2160 は変速レバーを 1 速にいれ、走行クラッチレバーを走行の位置にゴムバンド等で固定してください。

8. 本機が移動しない程度に軽くロープで固定してください。
・ フロントホイールステーの保持ピンと固定ピンを取外すとフロントホイールステーを本機から外すことができます。
・ UM2160 はハンドルの両側についている締付けノブとボルトを外すとハンドルを前に折りたたむことができます。



9. 本機を降ろす場合は走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーから手を放し、エンジンを始動しないでゆっくり行ってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（25 ～ 27 頁参照）
2. 燃料はありますか？（17、18 頁参照）
3. エンジンオイルは規定量ありますか？（19 頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（47、48 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう。

主要諸元

名　　称	UM2160K1	UM2460K1	
タ　イ　プ	J2	J2	JB2
型　　式	KZAG	KZAH	

エンジン

名　　称	GXV160H2
形　　式	単気筒、4 ストローク、OHV
排　気　量	163 cm^3
内径×行程	68.0×45.0 mm
点火時期	上死点前 20°
点火方式	トランジスタ式マグネト点火
エンジンオイル容量	0.65 L
燃料タンク容量	1.6 L
点火プラグ	BPR5ES（NGK）、W16EPR-U（DENSO）

フレーム

全　　長	1,780 mm	1,790 mm	
全　　幅	760 mm	900 mm	
全　　高	1,080 mm		
刈　　幅	530 mm	610 mm	
刈取り高さ	15 mm、30 mm、 50 mm、75 mm（4 段階）	10 mm、25 mm、 45 mm、70 mm（4 段階）	
乾燥質量（重量）	61 kg	69 kg	72 kg
全装備質量（重量）	63 kg	71 kg	74 kg
変速段数	前進 2 段	無段変速	
車　　速	1 速：0.5 m/ 秒、2 速：0.8 m/ 秒	0.4 ～ 1.0 m/ 秒	

※ 諸元は、予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

メ　モ

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通フリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　０１２０－１１２０１０（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ
正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の
事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30VD8610
00X30-VD8-6100

Ⓢ ⓃⒻⓂ
© 2017 本田技研工業株式会社